

發揮できる災害ボランティアセンター設置の必要性を痛感して、直ちに職場である社協に行き災害ボランティアセンターの必要性を語った。しかし、各機関に経験もなく初めてのことで戸惑いもあり、災害ボランティアセンターを設置しても、人は来るのか、活動資材はどうするのか、そもそも運営はできるのか等々、様々な不安が犇めき合い決断への道のりは、2時間程の間ではあるが険しかった。でも、社協としては、被災された皆さまに、社協としても何か出来ることはないかと考え、日常の地域とのつながりやネットワークまたはNPOやボランティア活動などを支援する社協内の組織「新居浜市ボランティア・市民活動センター」を活用して、社協職員が一丸となって取り組むことを災害発生の翌日の8月19日正午過ぎに決断し、ホームページで広報し始動した。

初動期には、復旧活動状況や被災状況などの情報がいき渡らなかつたり、スコップや一輪車などボランティアの活動資材や健康管理・安全衛生面に使う消毒液、タオル、マスク、飲料水などの物資供給が遅れがちだった。

センター運営に関し、マスコミ関係者の協力や新聞折込広告で緊急募集を掲載いただいた企業もあった。また、



小学生と保護者



洗濯ボランティア



高校生によるボランティア



非番消防職員（四国館内）

ホームページを社協スタッフが日々更新して、センターの運営状況、ボランティア活動状況などを適宜に発信提供することにより、多くのボランティアや賛同者を募ることが出来た。

災害復旧ボランティア活動としては、企業など多方面から参加ご協力をいただいた。なかでも、高専生や市内5校の高校生の若き力の活躍が特筆できる。また、四国各地消防署の非番職員の皆さまには、被害現場での先陣（現地アドバイザー）として、他のボランティアに模範的な行動、指示をいただき感謝している。

災害現場で活躍いただいたボランティア以外にも、看護、送迎、後片付け、洗濯、名札作りと多岐にわたるボランティアの皆さまがご協力してくださった。

活動初動時には、福井県から4トントラック2台分（土のう袋、スコップ、一輪車等）の活動資材をいただき非常に役立った。また、タオルや飲料水等の提供をお願いしたところ、東京のホテルをはじめ企業など多くの団体、方々からご協力いただいた。

ボランティアの送迎に、運転手付バス等の無償提供、ボランティアの疲労回復に浴場の無償提供、ボランティ